

1 基本計画の策定に至る背景

学校施設は、児童・生徒数が増加した昭和30年代後半から40年代にかけて整備されたものが多いため、これまでのペースで居ながら改築を進めた場合、目標使用年数を超えてから改築事業が完了する学校が発生するおそれがあります。
そのため、現在の北蒲広場を全面改築し、北蒲広場を中心とした半径1km圏内の小・中学校を改築する際の仮校舎専用施設として活用しながら周辺6校を無人改築することといたしました。

2 仮校舎専用施設を利用した無人改築の有用性

工事期間の短縮

・6校を全て居ながら改築した場合に約50年かかる計画を約25年に短縮

良好な教育環境の確保

・騒音や振動のない教育環境を維持
・新校舎の早期使用

周辺環境への負担軽減

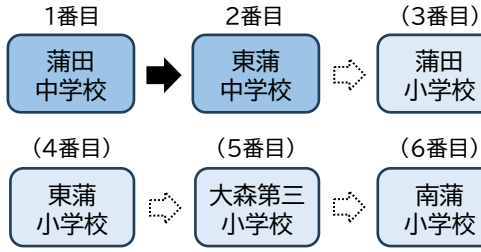
・工事期間の短縮により、騒音、振動が出る期間を最小限に抑える

コストの削減

・6校分の仮設校舎の経費を削減

3 使用予定校と改築の順序について

児童・生徒が連続して改築・改修中の学校に通うことを避けるため、中学校の改築を優先して行います。
3番目以降の小学校の順序は暫定的なものとし、今後の状況に応じて随時見直します。



4 仮校舎専用施設(北蒲広場)整備方針

- 1 建物規模については、児童・生徒数など周辺6校に対応できるように配慮しながら設計を行います。
- 2 長期間の使用を前提に、改築後の学校の仕様を標準に設計することで、通常の仮設校舎よりも良好な教育環境の確保に努めます。
- 3 使用する学校が替わるタイミングで改修を実施し各校で必要な教室数を確保します。
- 4 プールは整備せず、水泳授業については、近隣の施設を活用します。
- 5 児童・生徒の安全確保のため、利用開始前年度までに通学路を設定し、小学校利用時には児童誘導員を配備します。登校方法は、学校と相談のうえ集団登校など各学校の状況に応じて検討します。
- 6 仮校舎専用施設の建設工事中は、北蒲広場の代替避難所として大田区総合体育館を使用します。完成後は、防災機能を強化した避難所として活用します。使用予定校の改築・改修中は、大田区総合体育館を使用するとともに、近隣施設への分散避難も併用して対応します。

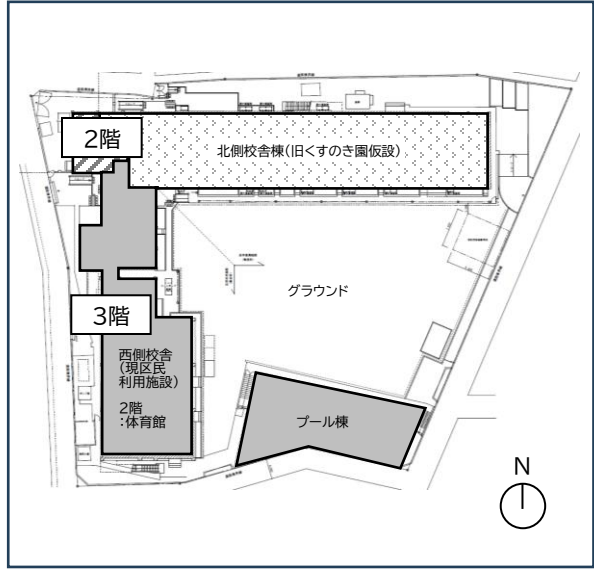
5 現状の配置と整備後の配置案

校庭の大きさや形状、教室数など、様々な視点から複数の配置案を比較・検討し、良好な学習環境を実現できる配置案を選定いたしました。

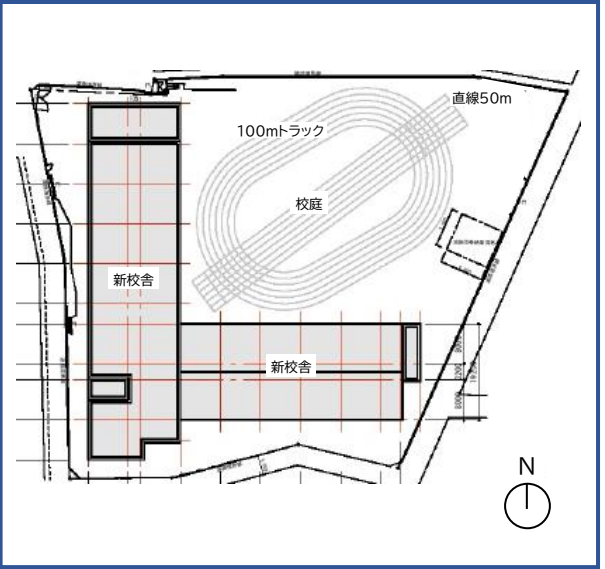
選定に至った理由は、以下のとおりです。

1	校舎を西側と南側に配置することにより、必要な教室数を確保することができる。
2	校庭の面積を最も広く取れるため、工事期間中の児童・生徒の屋外活動場所を確保することができる。(100mトラック、直線50m)
3	他の案と比較検討した結果、工事期間が最も短く、早い時期から運用開始が可能である。
4	プールを整備しないことで教室数を多く確保し、空き教室などを転用した活動や地域開放などでの貸出しを検討できる。

既存の配置図



整備後の配置図



6 スケジュール(案)

内容	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
詳細検討・基本計画	→			
設計等		→	→	→
工事(解体工事含む)				→

※本資料のスケジュール(案)は現時点で予定しているものであり、今後の設計等における詳細な検討に伴い、変更する可能性があります。
※工事期間については、今後の設計において詳細を検討します。

7 仮校舎専用施設(北蒲広場)ゾーニング案

仮校舎専用施設(北蒲広場)のゾーニング案は下図の通りです。
■建設予定建物 階数:地上4階建て/地階なし 構造:鉄骨造 ※今後の検討により、諸室の位置等が変更する場合があります。

